

## 商 業

### 1 学習指導と評価の改善・充実

～平成26年度「北海道高等学校学力向上推進事業」学力テスト（コアアビリティ）の分析結果と指導上の改善点～

#### (1) 学力テストの概要

##### ア 目的

全ての生徒に対し、社会的・職業的自立に最低限必要な学力を保証するとともに、能力・進路等に応じた教育を提供するため、対象や目的を明確にした3つのモデルを設定し、各モデルに応じて、生徒の学習内容の定着状況を把握する。なお、コアアビリティモデルにおいては、専門学科の原則履修科目における基礎的・基本的事項の定着状況を把握する。

##### イ 出題科目

「ビジネス基礎」「情報処理」「簿記」

##### ウ 問題の領域等

全ての領域において、高等学校学習指導要領の示す内容に基づいて出題した。

##### エ 実施校

商業に関する学科設置校の中から学力テストを希望した30校（第1学年2,357人）

##### オ 全道正答率

72.7%

#### (2) 問題の構成と評価の観点

科目 (領域)	学習指導要領の内容 大項目・中項目	評価の観点				正答率 (%)
		関	思	技	知	
ビジネス基礎 (経済と流通) (企業活動の基礎)	(4) 経済と流通の基礎 ア 経済の基礎 イ ビジネスの役割と発展 エ ビジネスの担い手 (5) 企業活動の基礎 イ 資金調達				○ ○ ○ ○	78.0%
ビジネス基礎 (ビジネス計算)	(3) ビジネスと売買計算 ア 売買取引とビジネス計算の基礎			○	○	80.0%
ビジネス基礎 (コミュニケーションの基礎)	(2) ビジネスとコミュニケーション ア ビジネスに対する心構え イ コミュニケーションの基礎		○ ○		○ ○	63.8%
情報処理 (情報モラル)	(1) 情報の活用と情報モラル ウ 情報モラル	○			○	16.5%
簿記 (簿記)	(1) 簿記の基礎 イ 資産・負債・純資産と貸借対照表 ウ 収益・費用と損益計算書 (2) 取引の処理 ウ 債権・債務 (3) 決算 ア 決算整理		○ ○		○ ○ ○ ○	55.9%

### (3) 領域別の分析結果と指導上の工夫・改善

科目（領域）ごとに結果を分析し、理解が不十分又は十分身に付いていないと考えられる事項について、指導上の工夫・改善の方策をまとめた。

[●：理解が不十分又は十分に身に付いていないと考えられる事項 ○：理解が十分に身に付いていると考えられる事項]

科目（領域）	分析結果	指導上の工夫・改善
ビジネス基礎 （経済と流通） （企業活動の基礎）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●経済主体についての理解が不十分であると考えられる。</li> <li>●一国の経済についての理解が不十分であると考えられる。</li> <li>●生活用品の種類を理解が不十分であると考えられる。</li> <li>●保険会社のビジネスについて、仕組みの理解が不十分であると考えられる。</li> <li>○ビジネスの担い手の役割や概要についての理解は十分であると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎経済の仕組みについて、新聞などの資料を活用して考察させるよう工夫する。</li> <li>◎経済のつながりについて、貿易などの具体的な事例を取り上げた学習を取り入れる。</li> <li>◎商品の種類や特徴について、グループで考察させる学習を取り入れる。</li> <li>◎保険に関する課題を設定し、比較・検討した結果を発表させる学習を取り入れる。</li> </ul>
ビジネス基礎 （ビジネス計算）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●貨幣換算の計算が十分に身に付いていないと考えられる。</li> <li>○割合の計算は身に付いていると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎為替相場の変動について、インターネットや新聞などを活用して、生徒の関心を高めるよう工夫する。</li> </ul>
ビジネス基礎 （コミュニケーションの基礎）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ビジネスの場面に応じた言葉の使い方を十分に習得していないと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ビジネスの場面に応じた基礎的なコミュニケーションの方法について、グループでの実習を積極的に取り入れる。</li> </ul>
情報処理 （情報モラル）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●著作権侵害の具体的な事例の理解が不十分であると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎著作権について、インターネットから事例を調べたり、調べた内容を考察させたりする学習を積極的に取り入れる。</li> </ul>
簿記 （簿記）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●資産・負債・純資産の基本的な意味の理解が不十分であると考えられる。</li> <li>●収益・費用の基本的な意味の理解が不十分であると考えられる。</li> <li>●有価証券の売却に関する記帳法の理解が不十分であると考えられる。</li> <li>○定額法による減価償却の計算は身に付いていると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎内容の異なる複数の資料から、それぞれ有用な情報を読み取らせ、それぞれの情報の関連を議論させたり、文章にまとめさせるなどの指導の工夫・改善が大切である。</li> <li>◎有価証券について、具体的で身近な例を用いて、簿記と実務の関連性を認識させるよう工夫する。</li> </ul>

### (4) 学力テストの結果を踏まえた改善の方向

教科「商業」では、ビジネスに必要な豊かな人間性を育むとともに、顧客満足実現能力、ビジネス探究能力、会計情報提供・活用能力、情報処理・活用能力といったビジネスの理解力と実践力を身に付けさせることをねらいとしている。このことから、教科「商業」の各科目においては、実学の視点に立ちながら、(3)で示した領域別の分析結果と指導上の工夫・改善や「2『確かな学力』」を育成する取組の改善・充実の具体的な取組を参考にすることで、学力テストの結果から明らかになった事項について、学科や生徒等の実態に応じて、学習指導の改善・工夫を図ることが重要である。

また、評価については、生徒一人一人の学習状況を適切に評価するため、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4観点を基本にして、学習指導要領に示す目標などに照らし、目標に準拠した評価を一層進めるとともに、評価の結果を、後の学習指導の改善に生かすなど、PDCAサイクルに基づく指導と評価の一体化を進めることが大切である。

## 2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

### ～平成26年度「北海道高等学校学力向上推進事業」学力テスト（コアアビリティ）の分析結果で明らかになった課題の解決に向けた具体的な取組～

前項で示した指導上の工夫・改善のうち、ここでは科目「情報処理」の領域「情報モラル」においてPDC Aサイクルの手法を取り入れた、具体的な指導事例を紹介する。

#### (1) P l a n（計画）「単元の指導計画例」

科 目 名	情報処理			
単 元 名	(1) 情報の活用と情報モラル ウ 情報モラル		教科書の章・節の内容や構成を吟味し、生徒の興味・関心や課題意識を引き出す授業展開を想定することが重要である。	
単 元 の 目 標	<p>情報が社会に与える影響の大きさ、情報に対する責任の重さ及び情報を取り扱う際に留意することについて、討論などを通して理解させる。また、個人情報や知的財産の保護の重要性について、ビジネスの諸活動における個人情報の漏洩や著作権の侵害などの具体的な事例の考察を通して理解させる。さらに、個人情報や知的財産の適切な取り扱いについて、法規と関連付けて理解させる。</p> <p>生徒の主体的・協働的な学習を取り入れ、課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力等」の育成や学習意欲を高める工夫が大切である。</p>			
単元の評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	<p>情報モラルについて関心を持ち、個人情報や知的財産の保護の重要性及び個人情報や知的財産の適切な取扱いについて探究しようとしている。</p>	<p>個人情報や知的財産の保護の重要性及び個人情報や知的財産の適切な取扱いについて思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。</p>	<p>情報モラルに関する資料を収集し、得られた情報のもつ意味を読み取り、整理している。</p>	<p>情報モラルに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、個人情報や知的財産の保護の重要性及び個人情報や知的財産の適切な取扱いについて理解している。</p>
単元の評価規準に即して、評価場面、評価方法を明確にし、生徒に学習を振り返らせたり、見通しを持たせたりする機会が必要である。				
単元の指導計画（全4時間）				
学習活動		言語活動に関する指導上の留意点		評価の観点 [評価の方法]
<p>第2次（3時間） [ペア学習、グループ学習] ・著作権の侵害について討論、考察、交流、発表を行う。</p>		<p>・著作権の概要について、ワークシート1にまとめる。 ・各自が記入したワークシート2を使用して、グループで交流し、まとめた内容を発表させる。</p>		<p>【関心・意欲・態度】 ○行動観察・発表内容 ○小テスト 【思考・判断・表現】 ○ワークシート1、2 ○小テスト 【技能】 ○ワークシート1、2 【知識・理解】 ○小テスト</p>
<p>学習課題を討論、考察、交流、発表させるための学習過程を定め、学習内容とのつながりを明確にする。また、生徒の学習意欲が持続するよう、適切な時間数を定める。</p>				

(2) D。(実践)「言語活動の取組を取り入れたワークシート例」

ア ワークシート1

情報モラル（著作権①）	1年組 番 氏名
ワークシートは、生徒が本時の学習の到達目標を実現できるよう工夫する。	
○ 「著作権」は、「著作権法」により「著作者人格権」と「著作財産権」の2つの権利が保護されています。教科書を参考に、それぞれの権利の内容についてまとめてみよう。	
著作者人格権とは、著作者だけが持っている権利で、他人に譲渡したり、相続したりすることはできない権利です。著作者人格権には、自分の著作物で、・・・	
資料を活用する[技能]の力を身に付けさせるために、教科書等を活用して、学習内容を自らの言葉でまとめさせるなど、生徒に追究し考察させた過程や結果を表現させたりすることができるよう工夫する。	

イ ワークシート2

情報モラル（著作権②）	1年組 番 氏名
1 次の「著作権」に関する事例を読み、隣の人（グループ）で話し合ってみよう。	
(事例) Aさんは、スマートフォンで、ウェブサイトを開覧していたとき、インターネット上で違法配信されている音楽サイトを見つけました。そのサイトでは、Aさんがほしいと思っていた曲（音楽）をダウンロードすることができます。Aさんは、個人的に利用する目的で違法配信と知りながらダウンロードしました。	
この事例は、「著作権の侵害」に該当すると思いますか。また、その理由について隣の人（グループ）と話し合ってみよう。	
① 著作権の侵害に、該当（ <u>する</u> ） ・ しない ） ※どちらかを○で囲む。	
② その理由は、インターネットで音楽や映像を配信する場合にも、著作権をもつ製作者などに ..... 了解を得て、所定の使用料を支払うことが必要だからです。	
指導に当たっては、具体的な事例を通して、個人のプライバシーや著作権などの知的財産の保護、収集した情報の管理、発信する情報に対する責任などの情報モラルについて理解させるよう配慮する。	
2 「著作権の侵害」に関する事例や留意点を調べてまとめてみよう。 ※新聞、書籍、インターネットなどの資料を参考にして調べてみよう。	
参考とした資料	〇〇新聞（平成〇〇年〇月〇日） 〇〇のウェブサイト（URL：http://.....）
私が調べた著作権侵害の事例は、ネットゲームのデータを不正改ざんできるチートプログラムをネットオークションで販売したというものです。留意点は、.....	
※調べた内容は、グループ内で発表してもらいます。（3分程度）	
[思考・判断・表現]の力を身に付けさせるために、追究し、考察した結果を踏まえて、新たな課題を設定し、その課題について見通しを持ってさらに考察させるよう工夫する。	

### (3) Check (評価)「単元の小テスト例」

情報モラル (小テスト)	1年組 番氏名 _____
<p>① 次の各文が示す内容をあらわす用語を答えなさい。(知識・理解)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1 個人情報の有用性に配慮しながら、個人の権利利益を保護することを目的として、民間事業者が、個人情報を取り扱う上でのルール。</p> </div> <p>② 次に示す行為を禁じている法律名を答えなさい。(知識・理解)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1 他人の無線LANアクセスポイントから勝手にインターネットにアクセスすること。</p> </div> <p>③ 次の事例について答えなさい。(思考・判断・表現) (出所：文化庁ホームページ <a href="http://chosakuken.bunka.go.jp/naruhodo/">http://chosakuken.bunka.go.jp/naruhodo/</a>)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ある作家のファンが、インターネット上にその作家のファンサイトを作成し、作家の作品一覧や出版物の表紙を紹介しようとしています。著作権の問題で気を付けることはありますか。</p> </div> <p>④ 今回の学習を通して、さらに知りたいと思ったことについて書きなさい。(関心・意欲・態度)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>携帯電話の通話が盗聴された場合、どのような法律が適応されるのか。</p> </div>	
<div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>小テストは、<u>単元の到達目標に照らして</u>、生徒の学習の成果を4つの観点に基づいて評価できるよう工夫する。また、小テストの結果から<u>指導方法や指導内容の工夫・改善</u>を図ることが重要である。</p> </div>	

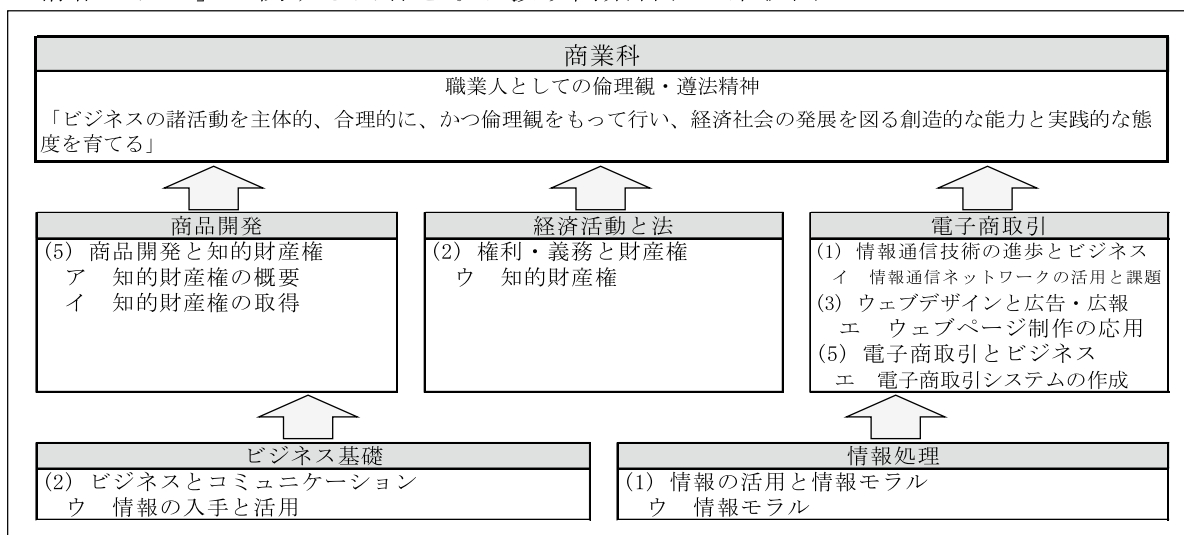
### (4) Action (改善)「評価(C)の生徒への指導の手立て例」

評価の観点	「努力を要する」と評価される生徒への適切な指導例
関心・意欲・態度	○著作権の重要性を再度、想起させるとともに、身近な著作権の侵害に関する事例を挙げ、意欲の向上を図る。
思考・判断・表現	○他のメンバーの意見を整理した上で、著作権の侵害に関する事例と理由について、具体的に考えさせる。
技能	○著作権について、教科書や新聞等に記載されている事項を比較させることで、まとめるべきポイントをアドバイスする。
知識・理解	○ワークシートのポイントとなる部分について、教科書の内容と関連付けをすることで、情報モラルの大切さに気付かせる。

### (5) 系統的な情報モラルの学習

教科「商業」においては、利益の追求や与えられた業務の遂行だけでなく、法令を遵守することはもとより、倫理観を醸成し、社会の信頼を得てビジネスの諸活動に取り組むことができる人材の育成が求められている。このような人材を育成するためにも、商業の各分野の学習や就業体験などを通して、日ごろからグループで調査や研究などの活動を行う機会、ビジネスの諸活動の望ましい在り方について討論や考察を行う機会、地域や産業界と連携し、共同して課題解決に取り組む機会を設けるなどの工夫を図り、経済社会の望ましい構成者としての意識を高めさせることが大切である。

< 「情報モラル」に関する内容を取り扱う商業科目の系統図 >



3 平成26～27年度教育課程研究指定事業（A商業高校）の取組の成果（中間）

(1) 研究主題

学習指導要領の趣旨等を実現するためのケースメソッドを取り入れた指導方法と評価方法の工夫改善及び学習の実現状況の把握についての研究

(2) 研究の内容や方法等

科目「ビジネス基礎」の内容「(2) ビジネスとコミュニケーション」地域イベントへの参加に向け、良好な人間関係を構築することの意義や必要性について理解を深める指導方法・評価方法の研究及び学習教材の作成

研究計画の抜粋（1年目）

実施時期	研究内容・研究方法・成果の公開等	期待される成果等
1 学期 (4月～7月)	1 年間指導計画とシラバスの作成 2 指導方法の研究、ケース教材の作成 3 観点別評価の研究と評価規準の作成 4 道内及び道外の教員との交流及び情報収集 5 研究協議会等による報告 6 1 学期の研究内容の確認とまとめ	○ケースメソッドが、効果的に活用できる単元を検討する機会が創出される。 ○評価規準・評価方法の工夫により生徒の興味・関心・意欲が高まる。 ○他校との交流により学校間の連携が強化される。
2 学期 (8月～12月)	7 公開授業の実施と指導方法の改善 8 指導方法及び学習評価に関する研修会の実施 9 指導主事による授業見学及び評価方法の指導・助言 10 校内研修会の開催、ケース教材の修正と追加 11 地域イベントへの参加（イベントでの報告会開催） 12 2 学期の研究内容の確認とまとめ	○生徒のコミュニケーション能力を育成できる。 ○公開授業等により、どのようなケース教材を用意すれば生徒の意欲を誘引するかを探究できる。 ○地域イベントにおいて積極的にコミュニケーションを図る生徒が増加する。
3 学期 (1月～3月)	13 公開授業の実施と指導方法の改善 14 校内外の研修会の開催 15 授業実践成果のまとめ、ウェブページの作成 16 研究成果の検証と次年度への改善策の検討 17 国立教育政策研究所の研究協議会にて中間報告	

(3) 成果の検証方法等

- ア グループにおける討議の様子や生徒による授業評価及び自己評価により評価規準の妥当性について検証する。
- イ 公開授業や研究授業及び校内外研修会により検証する。
- ウ ケース教材を取り入れた授業の効果等についてアンケートを実施し検証する。

(4) 研究の中間のまとめや成果の普及方法等の見通し

- ア 各種研究会においてケースメソッドを取り入れた授業の効果について研究発表を行うとともに、研究授業を実施する。
- イ 研究で作成した教材や評価方法などを円滑に活用できるよう学校のウェブページやほっかいどうスクールネットの教育用教材検索・登録に掲載するとともに、研究誌等を通じて各学校への情報提供を行う。